

3 スピリチュアルとは？

【全5回】／開催方法：現地

おか ひろし
岡 宏

近畿大学
生物理工学部講師
中村元記念館東洋思想
文化研究所研究員



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：10月17日)

【日程】【全5回】 1回／月 第3土曜日
(10/21、11/18、12/16、2024/1/20、2/17)

【時間】 10:30～12:00

■受講に必要なもの
[テキスト] レジューメ配布

Spiritualityは、本邦では「霊性」と訳されることもある。仏教学者の鈴木大拙氏が、これを「日本的霊性」と表現したことは、あまりにも有名である。名著『日本的霊性』は、宗教心の根源をなす「霊性」の全面的な開頭を、「禅」と「浄土思想」に跡付けた大拙氏の宗教哲学の代表作である。「日本的霊性」が、日本を代表する宗教との関連で語られるとすると、同様の手法によって語られる「〇〇的霊性」が存在すると思われる。そして、その一つ一つは、それぞれの宗教文化との関連で語られていることは想像に難くない。

和辻哲郎氏が『風土』で語ったように、それらは時間的・空間的所産であり、言葉や宗教に違いがあるように、「霊性」も国によって異なりを見せるはずである。それは「霊性」の内実が国によって異なるということの意味している。

ところで、スピリチュアリティ(＝「霊性」)を考える時、宗教に限定することは必ずしも現実的ではない。それは、宗教や信仰を持たないが、「霊性」には充分な関心を寄せる人々がいるからである。例えば、自然の摂理と一体化した人間の営み、中にはアニミズム的なものも少なからずある。現実世界の超越的存在に畏敬の念を抱く場合もある。鈴木大拙氏の「禅の思想」は、哲学的要素を多分に併せ持っているようにも感じられる。このように、スピリチュアリティの定義は、必ずしも一定とは言えない状況にある。

本講では、スピリチュアリティの置かれた状況を踏まえ、そこからスピリチュアリティの定義を試み、それが人間存在とどのように関連し、さらに、「ケア」として展開する可能性を有するかについて考えを進めてみたい。

【講義計画】

- 第1回 「スピリチュアルとは①」
- 第2回 「スピリチュアルとは②」
- 第3回 「スピリチュアルの本質」
- 第4回 「スピリチュアルと人間」
- 第5回 「スピリチュアル その展開としてのケア」